

VMware vCenter Operations Manager for Horizon 補足

vCenter Operations Manager for Horizon 1.7

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-001558-00

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2014 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

VMware株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

VMware vCenter Operations Manager for Horizon 補足	5
1 システム要件	7
製品の互換性	7
V4H アダプタのソフトウェア要件	7
Broker Agent ソフトウェアの要件	8
Desktop Agent ソフトウェアの要件	8
表示 イベントを提供する Oracle データベースのサポート	8
vCenter Operations Manager for Horizon のハードウェア要件	8
2 vCenter Operations Manager for Horizon のインストールと構成	9
vCenter Operations Manager for Horizon インストール ファイルのダウンロード	9
vCenter Operations Manager for Horizon のインストールと構成	10
View 5.0 または 5.1 を監視するための vCenter Operations Manager for Horizon の構成	14
vCenter Operations Manager for Horizon 1.7 へのアップグレード	17
セキュリティ機能の構成	17
vCenter Operations Manager for Horizon アラートの変更	18
vCenter Operations Manager for Horizon インストールのトラブルシューティング	20
データ収集結果ウィジェットの設定	20
3 vCenter Operations Manager での View 環境の監視	23
View のダッシュボードの使用	23
データ収集結果ウィジェットの使用	33
インデックス	35

VMware vCenter Operations Manager for Horizon 補足

『VMware vCenter Operations Manager for Horizon 補足』には、VMware vCenter™ Operations Manager for Horizon™ 1.7 リリースのインストールおよび構成に関する情報が記載されています。

対象者

この情報は、vCenter Operations Manager for Horizon 1.7 をインストール、アップグレード、または使用するユーザーを対象としています。

システム要件

vCenter Operations Manager for Horizon には固有のシステム要件があります。
vCenter Operations Manager for Horizon をインストールする前に、環境がこれらのシステム要件を満たしていることを確認します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [製品の互換性 \(P. 7\)](#)
- [V4H アダプタのソフトウェア要件 \(P. 7\)](#)
- [Broker Agent ソフトウェアの要件 \(P. 8\)](#)
- [Desktop Agent ソフトウェアの要件 \(P. 8\)](#)
- [表示 イベントを提供する Oracle データベースのサポート \(P. 8\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon のハードウェア要件 \(P. 8\)](#)

製品の互換性

vCenter Operations Manager for Horizon 1.7 は次の Horizon View、Horizon、および vCenter Operations Manager のバージョンと互換性があります。

- View 5.0.x または 5.1.x
- Horizon View 5.2.x または 5.3.x
- Horizon 6.0.x with View
- vCenter Operations Manager 5.8.3 (vApp デプロイ)

注意 vCenter Operations Manager for Horizon を vCenter Operations Manager のスタンドアロン インストールで使用することはできません。

V4H アダプタのソフトウェア要件

V4H アダプタを vCenter Operations Manager vApp デプロイにインストールします。

V4H アダプタには次のソフトウェア要件があります。

- vCenter Operations Manager 5.8.3 (vApp デプロイ)
- vCenter Operations Manager for Horizon 1.7 と vCenter Operations Manager 5.8.3 を有効化するライセンス。

V4H 1.7 アダプタは、vCenter Operations Manager for Horizon broker agent および desktop agent の次のバージョンと互換性があります。

表 1-1. 互換性のある Desktop Agent および Broker Agent のバージョン

エージェント	互換性のあるバージョン
ブローカー	1.7
デスクトップ	1.5.x および 6.0 注意 ゲスト内処理データの収集といくつかのメトリックは、1.5.x desktop agent ではサポートされません。

Broker Agent ソフトウェアの要件

表示 環境内の View 接続サーバ ホストに broker agent をインストールします。Broker Agent は、各 表示 ポッドまたはクラスタの 1 つの View 接続サーバ ホストにのみインストールします。

Broker Agent のソフトウェア要件は、次のとおりです。

- View 接続サーバ 5.0 以降
- Microsoft .NET Framework バージョン 3.5

broker agent を 32 ビット版の View 接続サーバ 5.0 ホストにインストールすることはできません。

Desktop Agent ソフトウェアの要件

Horizon View 5.2 以降および Horizon 6.0.x with View 環境では、desktop agent は View Agent の一部としてインストールされます。

表示 5.0 または 5.1 環境を使用している場合は、デスクトップ上に Desktop Agent を手動でインストールする必要があります。詳細については、「[View 5.0 または 5.1 を監視するための vCenter Operations Manager for Horizon の構成 \(P. 14\)](#)」を参照してください。

表示 イベントを提供する Oracle データベースのサポート

表示 イベントを SQL データベースまたは Oracle データベースに保存できます。表示 でサポートされる Oracle データベースと SQL データベースのバージョンについては、お使いの表示 バージョンのインストール ドキュメントを参照してください。

Oracle イベント データベースを使用する 表示 環境では、broker agent がインストールされているサーバ上の ODAC クライアント ライブラリのアップデートが必要な場合があります。

64 ビット システムを更新するには、

<http://www.oracle.com/technetwork/database/windows/downloads/index-090165.html> にアクセスし、64 ビット ODAC 11.2 リリース 4 (11.2.0.3.0) Xcopy for Windows x64 のリンクから ZIP ファイルをダウンロードして、ZIP ファイルに含まれている **readme.html** ファイルの指示に従います。

注意 1.7 Broker Agent では 32 ビット システムはサポートされません。

vCenter Operations Manager for Horizon のハードウェア要件

vCenter Operations Manager for Horizon 1.7 のハードウェア要件は vCenter Operations Manager for Horizon View 1.5.1 のハードウェア要件と同じです。

詳細については、1.5.1 リリース用の『vCenter Operations Manager for Horizon View のインストール』ドキュメントの「vCenter Operations Manager for Horizon View のハードウェア要件」を参照してください。

vCenter Operations Manager for Horizon のインストールと構成

2

vCenter Operations Manager for Horizon のインストールと構成には、VMware 製品ダウンロード ページからのインストール ファイルのダウンロード、vCenter Operations Manager および View 環境内のマシンでのソフトウェア コンポーネントのインストールと構成が含まれます。View 5.0 および 5.1 環境を監視するには、追加のインストールおよび構成手順が必要です。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vCenter Operations Manager for Horizon インストール ファイルのダウンロード \(P. 9\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon のインストールと構成 \(P. 10\)](#)
- [View 5.0 または 5.1 を監視するための vCenter Operations Manager for Horizon の構成 \(P. 14\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon 1.7 へのアップグレード \(P. 17\)](#)
- [セキュリティ機能の構成 \(P. 17\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon アラートの変更 \(P. 18\)](#)
- [vCenter Operations Manager for Horizon インストールのトラブルシューティング \(P. 20\)](#)
- [データ収集結果ウィジェットの設定 \(P. 20\)](#)

vCenter Operations Manager for Horizon インストール ファイルのダウンロード

登録済みの VMware ユーザーは、製品のダウンロード ページから vCenter Operations Manager for Horizon インストール ファイルをダウンロードできます。

表 2-1. vCenter Operations Manager for Horizon のインストール ファイル

ファイル名	コンポーネント	インストール場所
VMware-vcops-viewadapter-1.7.0- <buildnumber>.pak	アダプタ	vCenter Operations Manager vApp。 PAK ファイルは、 vCenter Operations Manager 管理 ポータルを使用してインストールしま す。
VMware-v4vbrokeragent-x86_64-1.7.0- <buildnumber>.exe	broker agent	View 接続サーバ ホスト。
VMware-v4vdesktopagent-6.0.0- <buildnumber>.exe	Desktop agent	View 5.0 および 5.1 デスクトップ。 注意 Horizon View 5.2 以降および Horizon 6.0.x with View の場合、 desktop agent は View Agent イン ストーラに含まれています。
VMware-v4vdesktopagent-x86_64-6.0.0- <buildnumber>.exe		

vCenter Operations Manager for Horizon のインストールと構成

View 環境と vCenter Operations Manager 環境のマシンに、vCenter Operations Manager for Horizon ソフトウェア コンポーネントをインストールして構成します。

開始する前に

- 環境が vCenter Operations Manager for Horizon のハードウェアおよびソフトウェアの要件を満たしていることを確認します。第 1 章「システム要件 (P. 7)」を参照してください。
- 表示 がインストールされ実行されていることを確認します。使用している 表示 バージョンのインストールのドキュメントを参照してください。
- vCenter Operations Manager vApp がデプロイされ、実行されていることを確認してください。『vCenter Operations Manager vApp デプロイおよび構成』ドキュメントを参照してください。
- 製品のダウンロード ページから、vCenter Operations Manager for Horizon のインストール ファイルをダウンロードします。

V4H アダプタのインストール

PAK ファイルから V4H アダプタを vCenter Operations Manager vApp にインストールします。

注意 アダプタのインストール プロセスにより、vCenter Operations Manager vApp が再起動されます。vApp の再起動中はデータが収集されません。

開始する前に

- アダプタのインストール ファイルがダウンロードされていることを確認します。
- アダプタのインストール ファイル内のビルド番号を書き留めます。

手順

- 1 VMware-vcops-viewadapter-1.7.0-<buildnumber>.pak ファイルを一時フォルダにコピーします。
- 2 vCenter Operations Manager 管理ポータルにログインします。
管理ポータルの URL は <https://<ipaddress>/admin/> で、<ipaddress> は vCenter Operations Manager vApp の UI VM の IP アドレスです。
- 3 [更新] タブで、[参照] をクリックして一時フォルダを特定し、PAK ファイルを選択して [開く] をクリックします。
- 4 [更新] をクリックし、[OK] をクリックして更新を確認します。
管理者ポータルによって PAK ファイルがアップロードされます。このアップロードは数分かかる場合があります。
- 5 EULA を読んで、同意する場合は [OK] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックして、アダプタのインストール プロセスを確認して、開始します。
インストール プロセスは数分かかる場合があります。インストールが終了すると、[更新] タブにステータス情報が表示されます。
- 7 vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスに管理者でログインします。
カスタム ユーザー インターフェイスの URL は <http://<ipaddress>/vcops-custom> で、<ipaddress> は vCenter Operations Manager vApp の UI VM の IP アドレスです。
- 8 [管理] - [サポート] を選択します。
- 9 [情報] タブで、[アダプタ情報] ペインを探し、[アダプタ バージョン] 列に表示される V4H アダプタのビルド番号が PAK ファイル内のビルド番号と一致することを確認します。

次に進む前に

vCenter Operations Manager にアダプタ インスタンスを作成します。[\[V4H アダプタ インスタンスの作成 \(P. 11\)\]](#) を参照してください。

V4H アダプタ インスタンスの作成

V4H アダプタをインストールした後、vCenter Operations Manager 内に V4H アダプタのインスタンスを作成する必要があります。

開始する前に

- V4H アダプタをインストールします。[\[V4H アダプタのインストール \(P. 10\)\]](#) を参照してください。
- vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスで、[管理] - [サポート] の順に選択し、[ステータス] タブの [アダプタ情報] ペインに V4H アダプタが表示されることを確認します。

手順

- 1 vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスに管理者でログインします。
カスタム ユーザー インターフェイスの URL は <https://<ipaddress>/vcops-custom> です。<ipaddress> は vCenter Operations Manager vApp の UI VM の IP アドレスです。
- 2 [環境] - [設定] - [アダプタ インスタンス] を選択します。
- 3 使用するコレクタを[コレクタ]ドロップダウン メニューから選択します。
監理者がコレクタを別途追加しない限り、使用可能なコレクタは [vCenter Operations Standard Server] のみです。
- 4 [アダプタ種別] ドロップダウン メニューから、[V4H アダプタ] を選択します。
- 5 [新規アダプタ インスタンスの追加] アイコンをクリックします。
- 6 [アダプタ インスタンス名] テキスト ボックスにアダプタ インスタンスの名前を入力します。
- 7 [メトリック セット] ドロップダウン メニューから、収集対象のメトリック セットを選択します。

オプション	説明
フルセット	監視対象の環境で使用可能なすべてのメトリックを収集します。
削減セット	限定的なメトリック セットを収集して、Analytics 仮想マシン上のディスク領域を節約します。

- 8 [認証情報] ドロップダウン メニューから、broker agent とアダプタ インスタンスとのペアリング時に使用する認証情報の名前を選択し、[追加] をクリックして新しい認証情報を作成します。
最初にアダプタ インスタンスを作成するときは、[認証情報] ドロップダウン メニューは空白です。
- 9 (オプション) アダプタ インスタンスの認証情報を追加する必要がある場合は、これらの手順を実行します。
 - a [認証情報] ドロップダウン メニューの隣にある [追加] をクリックします。
 - b [認証情報の種類] ドロップダウン メニューから [認証情報のペアリング] を選択します。
 - c [インスタンス名] テキスト ボックスに認証情報の名前を入力します。
 - d [サーバキー] テキスト ボックスに、アダプタ インスタンスのサーバキーを入力します。
broker agent とアダプタ間のペアリングを有効化するには、サーバキーが必要です。サーバキーは、broker agent の構成時に指定する必要があります。
 - e [OK] をクリックして認証情報を保存します。
 - f [アダプタ インスタンスの追加] ダイアログ ボックスで、[認証情報] ドロップダウン メニューから新しい認証情報を選択します。

10 [OK] をクリックしてアダプタ インスタンスを保存します。

次に進む前に

broker agent をインストールします。[\[Broker Agent のインストール \(P. 12\)\]](#) を参照してください。

Broker Agent のインストール

表示 環境内の View 接続サーバ ホストに broker agent をインストールします。表示 環境に複数のポッドが存在する場合は、各ポッドの 1 台の View 接続サーバ ホストにのみ broker agent をインストールします。

表示 環境内の broker agent の数にかかわらず、必要な V4H アダプタは 1 つのみです。複数の broker agent が単一のアダプタ インスタンスと通信できます。

重要 broker agent を View セキュリティ サーバにインストールすることはできません。

開始する前に

broker agent のインストール ファイルがダウンロードされていることを確認します。

手順

- ローカル管理者グループの一部であるドメイン アカウントを使用して、broker agent のインストール先の View 接続サーバ ホストにログインします。
- View 接続サーバ ホストの一時フォルダに、`VMware-v4vbrokeragent-x86_64-1.7.0-<buildnumber>.exe` ファイルをコピーします。
- 一時フォルダで EXE ファイルを実行し、broker agent セットアップ ウィザードを開始します。
- エンド ユーザー使用許諾契約を承諾し [次] をクリックします。
- [VMware vCenter Operations Manager for View Broker Agent 構成ユーティリティを起動します] チェック ボックスを選択して [インストール] をクリックします。

この設定を有効にすると、broker agent のインストール後すぐに Broker Agent 構成ウィザードが開きます。デフォルトでは、チェック ボックスは選択されています。

- インストールが終了したら [終了] をクリックして broker agent のセットアップ ウィザードを終了します。

broker agent は、View 接続サーバと同じフォルダにインストールされます。

次に進む前に

Broker Agent 構成ウィザードを使用して broker agent を構成し、V4H アダプタに接続します。[\[Broker Agent の構成 \(P. 12\)\]](#) を参照してください。

Broker Agent の構成

broker agent の構成には、Broker Agent 構成ウィザードを使用します。broker agent をインストールした View 接続サーバ ホストで Broker Agent 構成ウィザードを実行します。

Broker Agent セットアップ ウィザードのチェック ボックスで、broker agent をインストール後すぐに Broker Agent 構成ウィザードを開くかどうかを設定します。デフォルトでは、チェック ボックスは選択されています。

broker agent の構成時に、broker agent と V4H アダプタをペアリングします。broker agent と V4H アダプタのペアリングは、broker agent と desktop agent がアダプタと通信できるようにするために必要な認証手順です。ペアリングプロセスが完了するまで、broker agent とデスクトップ エージェントはアダプタと通信できません。

表示 環境にイベント データベースが含まれている場合は、イベント データベースに接続するよう broker agent を構成できます。必要に応じて、特定のデスクトップ プールを監視するよう broker agent を構成できます。

開始する前に

- broker agent をインストールします。[「Broker Agent のインストール \(P. 12\)」](#) を参照してください。
- vCenter Operations Manager for Horizon アダプタのサーバキーを所有していることを確認します。サーバキーは、アダプタ インスタンスの認証情報の作成時に指定されています。
- V4H アダプタが実行されている vCenter Operations Manager Analytics 仮想マシンの IP アドレスを所有していることを確認します。Analytics 仮想マシンの IP アドレスは、vCenter Operations Manager 管理ポータル の [ステータス] タブで確認できます。
- 表示 環境にイベント データベースが含まれている場合は、そのデータベース フォーマットがサポートされていることを確認します。[「表示 イベントを提供する Oracle データベースのサポート \(P. 8\)」](#) を参照してください。
- 表示 内の特定のデスクトップ プールを監視するには、それらのプールの ID を取得します。プール ID は View Administrator で確認できます。詳細については、使用している 表示 バージョンの管理ドキュメントを参照してください。
- ドメイン ユーザー アカウントを使用して View 接続サーバ ホストにログインしていることを確認します。ローカル アカウントには、すべての設定を構成するために必要な権限がありません。

手順

- 1 Broker Agent の構成ウィザードをまだ開いていない場合は、[スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [VMware] - [vCenter Operations Manager View Broker Agent の設定] を選択してウィザードを開始します。
- 2 [アドレス] テキスト ボックスに、V4H アダプタが実行されている Analytics 仮想マシンの IP アドレスを入力します。
- 3 [ポート] テキスト ボックスに、V4H アダプタに接続するために使用するポートを入力します。
デフォルトでは、broker agent は V4H アダプタとの通信にポート 3091 を使用します。デフォルトのポート番号は、ネットワーク構成に応じて変更できます。
- 4 [ペア] をクリックし、broker agent を V4H アダプタとペアリングします。
- 5 ウィザードでアダプタのサーバキーの入力を求めるメッセージが表示されたら V4H アダプタのサーバキーを入力して確認し、[OK] をクリックしてペアリング プロセスを開始します。
ペアリング プロセスのステータスが [View Adapter のペアリング] ウィンドウに表示されます。
- 6 ペアリング プロセスが正常に終了したら、[閉じる] をクリックして [View Adapter のペアリング] ウィンドウを閉じます。
- 7 [View プール フィルタ] ダイアログ ボックスで vCenter Operations Manager の特定のデスクトップ プールを監視する手順を実行するか、または [次へ] をクリックして次のダイアログ ボックスに進みます。
デスクトップ プール ID を指定しない場合は、vCenter Operations Manager はすべてのデスクトップ プールを監視します。
 - a [デスクトップ プールの指定] チェック ボックスを選択し、監視するデスクトップ プールの ID をテキスト ボックスに入力します。
各デスクトップ ID の区切りにはコンマを使用してください。
 - b リストされたデスクトップ プールを含めるか除外するかを選択します。
 - c [検証] をクリックし、デスクトップ プールのリストを確認します。
 - d アプリケーション プールを監視するには、[アプリケーション プールとホストされているアプリケーションの監視] チェック ボックスを選択します。
監視する特定のアプリケーション プールを選択できません。
 [次へ] をクリックすると、構成した IP アドレスとポート番号が [サマリ] ウィンドウに表示されます。
- 8 Broker Agent サービスを開始するには、[サマリ] ウィンドウで [終了] をクリックします。
構成した broker agent の設定が [Broker Agent 設定] ダイアログ ボックスに表示されます。

- 9 [Broker Agent 設定] ダイアログ ボックスの Horizon View ポッド セクションで、View 管理者とイベント データベースの設定を構成します。
 - a ポッドの View 管理者アカウントのユーザー名、ドメイン、パスワードを入力して確認します。
通常、View Administrator アカウントは、View 接続サーバがインストールされている Windows サーバコンピュータ上のローカル管理者グループの一部です。
 - b 表示 環境にイベント データベースが含まれている場合は、データベースの認証情報を入力して確認します。

重要 イベント データベースに接続するよう broker agent を構成しない場合、vCenter Operations Manager for Horizon が極度に制限されます。表示 イベントと一部のメトリック（ログオンと再接続の回数など）が、vCenter Operations Manager のダッシュボードに表示されません。

- 10 [適用] をクリックして構成を保存します。
構成のステータスが [構成設定の適用] ウィンドウに表示されます。
- 11 構成設定を正常に適用したら、[閉じる] をクリックして [構成設定の適用] ウィンドウを閉じます。

次に進む前に

Horizon View 5.2 以降または Horizon 6.0.x with View を使用する場合は、vCenter Operations Manager カスタム ユーザー インターフェイスの vCenter Operations Manager for Horizon ダッシュボードで 表示 環境のパフォーマンスの監視を開始できます。第 3 章 [\[vCenter Operations Manager での View 環境の監視 \(P. 23\)\]](#) を参照してください。

View 5.0 または 5.1 を使用する場合は、追加の構成手順を実行する必要があります。[\[View 5.0 または 5.1 を監視するための vCenter Operations Manager for Horizon の構成 \(P. 14\)\]](#) を参照してください。

broker agent の初期構成以降に環境が変化した場合、broker agent がインストールされている View 接続サーバ ホスト上の設定を変更できます。詳細については、1.5.1 リリースの [\[vCenter Operations Manager for Horizon View の管理\]](#) の [\[vCenter Operations Manager for Horizon View Broker Agent の設定の変更\]](#) を参照してください。

View 5.0 または 5.1 を監視するための vCenter Operations Manager for Horizon の構成

View 5.0 または 5.1 環境では、vCenter Operations Manager for Horizon をインストールおよび構成するためにいくつかのタスクを追加で行う必要があります。

これらのタスクには、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタの RMI 認証の無効化、リモート デスクトップへの vCenter Operations Manager for Horizon Broker Agent のインストール、vCenter Operations Manager for Horizon で監視を行うすべてのリモート デスクトップに適用するグループ ポリシー オブジェクト (GPO) の構成が含まれます。

アダプタの RMI 認証の無効化

vCenter Operations Manager for Horizon を使用して View 5.0 または 5.1 環境を監視するには、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタでの RMI 認証を無効にする必要があります。

手順については、1.5.1 リリースの [\[vCenter Operations Manager for Horizon View のインストール\]](#) ドキュメントの [\[vCenter Operations Manager for Horizon View アダプタ上の RMI 認証の無効化\]](#) を参照してください。

次に進む前に

View 環境のデスクトップに、vCenter Operations Manager for Horizon 6.0 Desktop Agent をインストールします。[\[Desktop Agent のインストール \(P. 15\)\]](#) を参照してください。

Desktop Agent のインストール

vCenter Operations Manager for Horizon を使用して View 5.0 または 5.1 の環境を監視するには、desktop agent をリモート デスクトップに手動でインストールする必要があります。

リンク クローン デスクトップの場合、View Composer がリンク クローン仮想マシンの生成に使用する親仮想マシンに、desktop agent をインストールします。自動および手動デスクトップ プールのデスクトップの場合、desktop agent をデスクトップ プールの各仮想マシンのデスクトップソースにインストールします。Terminal Services プールの場合、desktop agent を Terminal Server にインストールします。

開始する前に

- vCenter Operations Manager for Horizon 1.7 アダプタおよび Broker Agent をインストールして構成します。[\[vCenter Operations Manager for Horizon のインストールと構成 \(P. 10\)\]](#) を参照してください。
- desktop agent をリンク クローン デスクトップにインストールする場合は、再構成操作についてよく理解してください。リンク クローン デスクトップの詳細については、お使いの View バージョンの View 管理ドキュメントを参照してください。
- desktop agent のインストール ファイルがダウンロードされていることを確認します。

手順

- desktop agent をリンク クローン デスクトップにインストールするには、リンク クローン デスクトップ プールの親仮想マシンで次の手順を実行します。
 - a vSphere Client で、親仮想マシンのコンソールを開き、ゲスト OS に管理者としてログインします。
 - b 親仮想マシンのゲスト OS に対応するデスクトップ エージェントのインストール ファイルをコピーします。

オプション	説明
64 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-x86_64-6.0.0-<buildnumber>.exe
32 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-6.0.0-<buildnumber>.exe

- c EXE ファイルを実行し、EULA に同意して [インストール] をクリックします。
- d インストールが完了したら、[終了] をクリックします。
desktop agent が View Agent と同じフォルダにインストールされます。
- e 親仮想マシンをシャットダウンします。
- f vSphere Client で、パワーオフ状態の親仮想マシンのスナップショットを作成します。
- g View Administrator で、リンク クローン デスクトップを再構成します。
再構成操作により、親仮想マシンにアンカーされたすべてのリンク クローン デスクトップが更新され、desktop agent が各リンク クローン デスクトップにインストールされます。

- desktop agent を自動または手動デスクトップ プールのデスクトップにインストールするには、プールの各仮想マシンで次の手順を実行します。

重要 自動デスクトップ プールの場合、desktop agent がプール内に新たに作成されたデスクトップにインストールされるように、仮想マシン テンプレートも変更する必要があります。

- 仮想マシンへのゲスト OS に対応する desktop agent のインストール ファイルをコピーします。

オプション	説明
64 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-x86_64-6.0.0-<buildnumber>.exe
32 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-6.0.0-<buildnumber>.exe

- EXE ファイルを実行し、EULA に同意して [インストール] をクリックします。
- インストールが完了したら、[終了] をクリックします。
desktop agent が View Agent と同じフォルダにインストールされます。

- desktop agent を Terminal Server または物理マシンのデスクトップ ソースにインストールするには、次の手順を実行します。

- Terminal Server または物理マシンのオペレーティング システムに対応する desktop agent のインストール ファイルをコピーします。

オプション	説明
64 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-x86_64-6.0.0-<buildnumber>.exe
32 ビットのゲスト OS	VMware-v4vdesktopagent-6.0.0-<buildnumber>.exe

- EXE ファイルを実行し、EULA に同意して [インストール] をクリックします。
- インストールが完了したら、[終了] をクリックします。
desktop agent が View Agent と同じフォルダにインストールされます。

次に進む前に

vCenter Operations Manager for Horizon で監視するすべてのリモート デスクトップに適用する GPO を構成します。[「リモート デスクトップ用 GPO の構成 \(P. 16\)」](#) を参照してください。

リモート デスクトップ用 GPO の構成

vCenter Operations Manager for Horizon を使用して View 5.0 または 5.1 環境を監視するには、vCenter Operations Manager for Horizon に監視させるすべてのデスクトップに適用するグループ ポリシー オブジェクト (GPO) を構成する必要があります。

手順については、1.5.1 リリースの『vCenter Operations Manager for Horizon View のインストール』ドキュメントの「すべてのデスクトップのグループ ポリシー オブジェクトの構成」を参照してください。

vCenter Operations Manager for Horizon 1.7 へのアップグレード

環境内に vCenter Operations Manager for Horizon View 1.5.1 または vCenter Operations Manager for Horizon 1.6 がインストールされている場合は、データを vCenter Operations Manager for Horizon 1.7 にインポートして引き続き View ポッドの健全性とパフォーマンスを監視できます。

開始する前に

- Horizon View 5.2 以降または Horizon 6.0.x with View を使用して View 環境をアップグレードするか、またはすべてのデスクトップに desktop agent をインストールします。「[Desktop Agent のインストール \(P. 15\)](#)」を参照してください。
- View 環境をアップグレードしない場合は、desktop agent GPO ポリシーがすべてのデスクトップに適用されていることを確認します。Analytics 仮想マシンをアダプタの場所として使用するよう、GPO ポリシーを構成する必要があります。手順については、1.5.1 リリースの『vCenter Operations Manager for Horizon View のインストール』ドキュメントの「すべてのデスクトップのグループ ポリシー オブジェクトの構成」を参照してください。
- V4H アダプタのインストール手順についてよく理解してください。「[V4H アダプタのインストール \(P. 10\)](#)」を参照してください。
- broker agent のインストール手順についてよく理解してください。「[Broker Agent のインストール \(P. 12\)](#)」を参照してください。
- broker agent の構成手順についてよく理解してください。「[Broker Agent の構成 \(P. 12\)](#)」を参照してください。

手順

- 1 以前の V4V または V4H アダプタがインストールされているサーバで、vCenter Operations View Adapter サービスを停止して無効にします。

vCenter Operations View Adapter サービスを停止すると、データ収集はアップグレード プロセスが完了するまで中断され、リソースやデータがデータベース内で重複するリスクは低減します。

- 2 V4H 1.7 アダプタをインストールします。

アダプタのインストール プロセス中に、リソース種別やメトリック名を含む以前の vCenter Operations Manager for Horizon View や vCenter Operations Manager for Horizon 構成が vCenter Operations Manager for Horizon 1.7 に準拠するように変換されます。V4H 1.7 アダプタは、以前の V4V や V4H アダプタを上書きしてデプロイされます。以前のアダプタをアンインストールしたり、V4H 1.7 アダプタ用の新規のアダプタ インスタンスを作成したりする必要はありません。

- 3 以前の broker agent をアンインストールします。
- 4 既存の実装を監視していたポッド内の View 接続サーバ ホストに 1.7 broker agent をインストールして構成します。

アップグレード プロセスの完了後は、すべての既存の vCenter Operations Manager for Horizon View または vCenter Operations Manager for Horizon のリソースが 1.7 データベースに移行します。

セキュリティ機能の構成

vCenter Operations Manager for Horizon コンポーネントで RMI を使用して通信を行います。このアダプタと broker agent コンポーネントで証明書を使用して、認証とデータの暗号化を行います。

RMI サービスが使用するデフォルト ポートは変更可能で、broker agent、デスクトップ エージェント、および特定の RMI サービスのデフォルトの SSL 構成も変更可能です。セキュリティ向上のため、アダプタと broker agent のデフォルトの自己署名証明書を置き換えることができます。

セキュリティ機能の構成の詳細については、テクニカル ホワイト ペーパー『[セキュリティ ガイド : vCenter Operations Manager for Horizon View 1.5](#)』を参照してください。このホワイト ペーパー内の情報は、vCenter Operations Manager for Horizon 1.7 にも適用されます。

vCenter Operations Manager for Horizon アラートの変更

vCenter Operations Manager for Horizon には、事前にしきい値が設定されている事前構成済みの View 関連アラートが多数用意されています。生成されるアラートが多すぎたり少なすぎたりしないように、これらのしきい値の一部を特定の View 環境に合わせて調整する必要がある場合もあります。環境に適用できないアラートを削除すると効率的な場合もあります。

アラートのしきい値を変更するには、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタの `describe.xml` ファイルを編集します。

アラート定義のフォーマット

vCenter Operations Manager for Horizon アラートは、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタの `describe.xml` ファイルに定義されています。`describe.xml` ファイルは Analytics VM の `/usr/lib/vmware-vcops/user/plugins/inbound/V4V_adapter3/conf` ディレクトリにあります。

アラート定義は、`describe.xml` ファイルの最後に表示されています。次に、`describe.xml` ファイルから抜粋したアラート定義のサンプルを示します。

```
<Alert
adapterkind="V4V"
resourcekind="ViewClient"
type="ht"
metric="pcoip|avg_pcoip_latency"
criticality="critical">
<Threshold
severity="warning"
operator=">"
value="300"
waitcycle="2"
cancelcycle="3"/>
<Threshold
severity="critical"
operator=">"
value="500"
waitcycle="2"
cancelcycle="3"/>
</Alert>
```

<Alert> 要素の属性

<Alert> 要素の属性には、アダプタの種類、リソースの種類、タイプ、メトリック、およびアラートの重要度レベルを定義します。

サンプルのアラート定義では、アラートの vCenter Operations Manager for Horizon アダプタの種類、Horizon クライアントのリソースの種類、ハードしきい値のアラートタイプ、PCoIP 平均待ち時間メトリック、および「critical」の重要度レベルを定義しています。

<Threshold> 要素の属性

<Threshold> 要素の属性には、ハードしきい値の重要度、演算子、値、待機サイクル、およびキャンセルサイクルを定義します。

サンプルのアラート定義では、Horizon クライアントの PCoIP 平均待ち時間メトリックが 300 ミリ秒を超えた場合に警告アラートを発行し、500 ミリ秒を超えた場合に重大アラートを発行します。

vCenter Operations Manager for Horizon アラートのハードしきい値の変更

vCenter Operations Manager for Horizon アラートの事前設定ハードしきい値が環境に適していない場合は、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタの `describe.xml` ファイルを編集してこの値を変更します。

開始する前に

- `describe.xml` ファイルのアラート定義フォーマットについてよく理解してください。「[アラート定義のフォーマット \(P. 18\)](#)」を参照してください。
- Analytics VM にアクセスする管理者権限を有していることを確認します。

手順

- 1 vSphere Client インベントリで、Analytics VM を探し、admin としてログインします。
- 2 Analytics VM で、テキスト エディタを使用して `describe.xml` ファイルを開きます。
`describe.xml` ファイルは `/usr/lib/vmware-vcops/user/plugins/inbound/V4V_adapter3/conf` ディレクトリにあります。
- 3 `describe.xml` ファイルでアラート定義を見つけます。
アラート定義は `<Alerts>` 要素の `describe.xml` ファイルの下部にあります。
- 4 アラートのハードしきい値を変更するには、そのアラートの `<Threshold>` 要素にある `value` 属性で指定した値を変更します。
- 5 変更内容を `describe.xml` ファイルに保存します。
- 6 vCenter Operations Manager 管理ポータルで、vCenter Operations Manager を再起動します。

次に進む前に

アラートのハードしきい値を変更すると、vCenter Operations Manager で他のアラート定義が生成されます。vCenter Operations Manager から元のアラートを削除する場合は、「[vCenter Operations Manager のアラートの削除 \(P. 19\)](#)」を参照してください。

vCenter Operations Manager のアラートの削除

アラートのハードしきい値を変更すると、vCenter Operations Manager で他のアラート定義が生成されます。vCenter Operations Manager から元のアラートを削除できます。

手順

- 1 vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスに管理者でログインします。
- 2 [環境] - [設定] - [属性パッケージ] を選択します。
- 3 [アダプタ種別] ドロップダウン メニューから、[V4H アダプタ] を選択します。
- 4 [リソース種別] ドロップダウン メニューから変更したアラートに関連付けられたリソース種別を選択します。
- 5 [すべての属性] パッケージを選択して [選択した属性パッケージの編集] アイコンをクリックします。
- 6 変更したアラートに関連付けられたメトリックを検索します。
- 7 [詳細設定] セクションで、削除するアラートが含まれる行を選択して [選択した行の削除] アイコンをクリックします。
- 8 [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

vCenter Operations Manager for Horizon インストールのトラブルシューティング

vCenter Operations Manager for Horizon コンポーネントのインストール中に問題が発生した場合は、ログ ファイルを収集して VMware に送信し、サポートを受けることができます。アダプタのログ レベルを変更して、vCenter Operations Manager カスタム ユーザー インターフェイスでアダプタの健全性ステータスを確認することもできます。

詳細については、『vCenter Operations Manager for Horizon View のインストール』ドキュメントの「vCenter Operations Manager for Horizon View のインストールのトラブルシューティング」と 1.5.1 リリース用の『vCenter Operations Manager for Horizon View の管理』ドキュメントの「vCenter Operations Manager for Horizon View の基本管理タスクの実行」を参照してください。

データ収集結果ウィジェットの設定

データ収集結果ウィジェットで、リモート デスクトップのゲスト内処理データを収集および表示します。ゲスト内処理データは、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタが通常収集するデスクトップ メトリックから切り離されている場合も、デスクトップ メトリックに追加されている場合もあります。

他のウィジェットからデータ収集結果ウィジェットにリソースを提供するように構成することも、データ収集結果ウィジェットを構成するときにリソースを選択することもできます。データ収集結果ウィジェットを構成しないと、ウィジェットにデータは表示されません。

データ収集結果ウィジェットは、データベースに過去のアクションの結果を保存します。vCenter Operations Manager がデータベースから古いデータを削除する頻度を構成できます。

データ収集結果ウィジェットの構成

別のウィジェットからデータ収集結果ウィジェットにリソースを提供するように構成するか、またはデータ収集結果ウィジェットを構成するときにリソースを選択する必要があります。オプションで、ウィジェット タイトルの変更、間隔の更新、特定のリソース種別のデフォルト データ収集アクションの指定が可能です。

開始する前に

- ダッシュボードの作成とウィジェットの編集に必要なアクセス権限があることを確認します。
- データ収集結果ウィジェットをダッシュボードに追加します。『VMware vCenter Operations Manager スタートガイド (カスタム ユーザー インターフェイス)』の「ダッシュボードへのウィジェットの追加」を参照してください。
- リソース ウィジェットなどの別のウィジェットからデータ収集結果ウィジェットにリソースを提供する場合は、ウィジェットの相互作用を構成します。『VMware vCenter Operations Manager スタートガイド (カスタム ユーザー インターフェイス)』の「ウィジェットの相互作用の構成」を参照してください。

手順

- 1 vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスに管理者でログインします。
カスタム ユーザー インターフェイスの URL は <https://<ipaddress>/vcops-custom> です。<ipaddress> は vCenter Operations Manager vApp の UI VM の IP アドレスです。
- 2 データ収集結果ウィジェットを含むダッシュボードのタブをクリックします。
- 3 ウィジェットのツールバーの[ウィジェットの編集]アイコンをクリックします。
- 4 (オプション) ウィジェット名を変更するには、[ウィジェット タイトル] テキスト ボックスに別の名前を入力します。
- 5 (オプション) 特定の期間後にデータを更新するようにデータ収集結果ウィジェットを構成するには、[ウィジェットの内容の更新] オプションを [オン] に設定し、[ウィジェットの更新間隔] テキストボックスに更新間隔を秒数で入力します。

- 6 別のウィジェットでデータ収集結果ウィジェットにリソースを提供するように構成した場合は、次の手順を実行し
 ます。
 - a [セルフ プロバイダ] オプションを [オフ] に設定していることを確認します。
この設定により、ウィジェットが別のウィジェットからリソースを受け取ることができます。デフォルトの設定は[オフ]です。
 - b [構成] タブで、[相互作用の変更での新しいデータ収集の開始] オプションを選択します。
[オン] を選択すると、リソース提供ウィジェットでリソースの選択が変更されるたびに新しいデータ収集アクションが起動します。デフォルトの設定は[オフ]です。
- 7 別のウィジェットでデータ収集結果ウィジェットにリソースを提供するように構成していない場合は、表示するリ
 ソースを選択します。
 - a [セルフ プロバイダ] オプションを [オン] に設定します。
この設定は、ウィジェットに表示するリソースをウィジェット構成に定義することを指定します。デフォルトの
 設定は[オフ]です。
 - b [構成] タブの [リソース] ペインで、リソースを選択します。
リソースは 1 つだけ選択できます。
選択したリソースが [選択したリソース] テキスト ボックスに表示されます。
- 8 (オプション) ウィジェットに表示できるリソースの種類ごとに、デフォルトのデータ収集アクションを選択します。
 デフォルトでは、リソースを選択すると、その種類のリソースのデフォルト アクションがデータ収集結果ウィジェ
 ットの [アクションの選択] ドロップダウン メニューに表示されます。
 - a [デフォルト] タブの [リソース種別] ペインでリソースの種類を選択します。
[検索] テキスト ボックスで、特定のリソースの種類を検索できます。
選択したリソースの種類で実行できるアクションが [デフォルトのデータ収集アクション] ペインに表示されます。
 - b [デフォルトのデータ収集アクション] ペインで、デフォルトのデータ収集アクションを選択します。
リソースの種類それぞれに、デフォルトのアクションを 1 つだけ選択できます。[検索] テキスト ボックスで、
 特定のアクションを検索できます。
- 9 [OK] をクリックしてウィジェット構成を保存します。

アクション結果のデータ保持ポリシーの変更

データ収集結果ウィジェットは、データベースに過去のアクションの結果を保存します。**advanced.properties** ファ
 イルを変更して、vCenter Operations Manager がデータベースから古いデータを削除する頻度を構成できます。

開始する前に

advanced.properties ファイルのバックアップ コピーを作成します。このファイルに変更を加えると、vCenter Operations Manager の操作に悪影響をおよぼすエラーが発生することがあります。

手順

- 1 テキスト エディタで **advanced.properties** ファイルを開きます。
advanced.properties ファイルは <vcenter-ops>\user\conf\analytics ディレクトリにあります。
<vcenter-ops> は vCenter Operations Manager のインストール ディレクトリです。
- 2 **oldActionResultsCleanerRange** プロパティを、データベースから古いデータを消去するまでの経過日数に変更
 します。
たとえば、30 日以上経過したデータを消去する場合は、**oldActionResultsCleanerRange** を 30 に設定しま
 ず。デフォルトの設定は 90 です。

- 3 変更内容を保存し、**advanced.properties** ファイルを閉じます。

vCenter Operations Manager での View 環境の監視

3

vCenter Operations Manager for Horizon アダプタをインストールすると、vCenter Operations Manager カスタム ユーザー インターフェイスに View 固有のダッシュボードがいくつか表示されます。これらのダッシュボードを使用し、View 環境のパフォーマンスを監視できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View のダッシュボードの使用 \(P. 23\)](#)
- [データ収集結果ウィジェットの使用 \(P. 33\)](#)

View のダッシュボードの使用

View のダッシュボードは、vCenter Operations Manager ユーザー インターフェイスの [ダッシュボード] メニューの [View] グループに配置されています。

View の各ダッシュボードは、少なくとも 1 つのマスター（または提供元の）ウィジェットと複数の受信側のウィジェットで構成されています。マスター ウィジェットはデータを受信側のウィジェットに提供し、受信側のウィジェットはマスター ウィジェットから受信した情報に基づいて、表示するデータを更新します。

View のダッシュボードのウィジェットは、標準の vCenter Operations Manager ウィジェットから作成されます。お使いのユーザー アカウントに必要なアクセス権があれば、View ウィジェットやダッシュボードを編集して環境に合わせてカスタマイズしたり、独自の View ダッシュボードを作成したりできます。

ダッシュボードとウィジェットの変更の詳細については、vCenter Operations Manager のドキュメントを参照してください。

View 概要ダッシュボード

View 概要ダッシュボードは、View 環境全体のステータスを表示します。View 概要ダッシュボードを使用して、エンドツーエンドの View 環境、その基盤となる環境、およびアラートを視覚化します。

View ポッドウィジェットは、View 概要ダッシュボードのマスター ウィジェットです。View ポッドウィジェットでポッドを選択すると、ポッド インジケータ メトリック、ポッド セッション メトリック、およびポッド容量メトリック ウィジェットに、選択したポッドのデータが表示されます。

View 概要ダッシュボードを使用する上でのヒント

- ポッド全体のポッド インジケータ メトリック ウィジェットのデータがロールアップされるため、このウィジェットはクライアントのパフォーマンスおよびユーザー エクスペリエンスについての有用な情報を提供します。
- ポッド全体のステータスを表示するには、ポッド インジケータ メトリック ウィジェットでポッド健全性、ポッド ワークロード、ポッド接続セッション、およびポッド切断セッションの各メトリックの値を表示します。

- Horizon クライアントとリモート デスクトップとの間の接続の質を評価するには、ポッド インジケータ メトリック ウィジェットでポッド平均 PCoIP 待ち時間、ポッド平均 PCoIP パケット ロス、ポッド PCoIP TX バンド幅、およびポッド PCoIP RX バンド幅の各メトリックの値を表示します。
- View ポッド ウィジェットを使用して、選択したポッドの合計セッション数（接続セッション数や切断セッション数を含む）を特定します。ポッド セッション メトリック ウィジェットを使用して、デスクトップ、アプリケーション、PCoIP、RDP、および Blast HTML セッションの各メトリックを表示します。
- 使用されている容量の割合、使用可能なセッションの容量、最大セッション容量など、選択したポッドの容量関連のメトリックを表示するには、ポッド容量メトリック ウィジェットの各メトリックを表示します。
- View アラート ウィジェットを使用して、アクティブなすべての View 関連アラートのリストを表示します。リスト内のアラートをダブルクリックすると、考えられるアラートの原因と環境への影響に関する情報を表示できます。

View インフラストラクチャ ダッシュボード

View インフラストラクチャ ダッシュボードを使用すると、View 環境をサポートする vSphere および View インフラストラクチャにすばやくアクセスできます。

View インフラストラクチャ ホスト、View VDI デスクトップ VM、View データストア、View RDS ホスト、および View TS ホストはヒート マップ ウィジェットです。これらのウィジェットは、View 環境内のインフラストラクチャ ホスト、リモート デスクトップ、データストア、RDS (Microsoft Remote Desktop Services) ホスト、Terminal Services ホストの健全性、ワークロード、接続に関する情報を表示します。

注意 RDS ホストは Horizon 6.0.x with View 環境に固有のホストです。Terminal Services ホストは Horizon View 5.3.x 以前の環境に固有のホストです。

View インフラストラクチャ ダッシュボードを使用する上でのヒント

- 各ウィジェットの色のついた四角形は、特定のリソースを表します。たとえば、View VDI デスクトップ VM ウィジェットでは、四角形はそれぞれ特定の仮想マシンを表します。その関連付けられたリソースについての基本情報を表示するには、四角形をポイントします。
- 四角形のサイズは 1 つのメトリックの値を示し、四角形の色は別のメトリックの値を示し、ウィジェットがどのメトリック値を表示するかはウィジェットの構成で指定します。たとえば、[構成] ドロップダウン メニューから [ワークロードによってサイズ調整 - 健全性によって色づけ] を選択すると、四角形がワークロード属性の値に応じてサイズ調整され、健全性属性の値に応じて色づけされます。値の範囲中で、赤色が低い値を示し、緑色が高い値を示します。

View ユーザー ダッシュボード

View ユーザー ダッシュボードを使用して、ユーザー各自の問題の視覚化とトラブルシューティングを行います。このダッシュボードは、ユーザーの問題のトラブルシューティングを行う必要がある View 管理者やヘルプ デスクの専門家に特に便利です。

View セッション ウィジェットには、環境内のすべての監視対象 View ポッドにおけるログイン中のユーザー セッションがすべて表示されます。識別子 3 列には、domain\username という形式でユーザー名が含まれます。識別子 5 列には、関連付けられたデスクトップ プールの名前が含まれ、RDS デスクトップ セッションとリモート アプリケーション セッションの場合は、セッションをホストする RDS の名前が含まれます。

View ユーザー ダッシュボードを使用する上でのヒント

- ユーザーが呼び出す場合は、View セッション ウィジェット ツールバー上の [検索] テキスト ボックスを使用して、ユーザーのセッションを検索します。ユーザー セッションを選択すると、そのセッションに関連付けられたリソースのステータス情報が、セッション関連オブジェクト ウィジェットに表示されます。セッション関連オブジェクト ウィジェット内の各アイコンは、特定のリソースを表します。リソースまたは関連するリソースのいずれかにアクティブなアラートがあると、アイコンの横に赤色の三角形が表示されます。

- セッション関連オブジェクト ウィジェット内のリソース アイコンをクリックすると、そのリソースについて収集されたメトリックがオブジェクトメトリック ウィジェットに表示されます。この情報は、正常な範囲を外れたメトリックを特定するのに役立ちます。たとえば、データストア要求が高かったり、ユーザーにプロビジョニングされたディスク領域が正常よりも大きくなっている場合などが考えられます。
- ほとんどのリソースについて、オブジェクトメトリック ウィジェットには、リソースタイプに特有のものとして事前構成されたメトリックのリストが表示されます。事前構成されたメトリックのリストがないリソースの場合、オブジェクトメトリック ウィジェットには、選択されたリソースにとって重要だと考えられるメトリックが表示されます。期待される範囲外にあるもの、一定のしきい値を上限または下限を超えているもの、あるいは KPI としてマークされているものがこれに該当します。
- セッション関連オブジェクト ウィジェット内のリソース アイコンをクリックすると、そのリソースの一定期間のメトリック値を含んだグラフがオブジェクトメトリックチャート ウィジェットに表示されます。これらのグラフから、KPI の傾向を簡単に把握できます。メトリック名の隣にある灰色のバーは、そのメトリックに予想される範囲を示します。異常が通知されたり、一部のメトリックが特定のデスクトップの動的しきい値を超えていると表示されることがあります。
- 今後の分析のためにオブジェクトメトリックチャート ウィジェットにメトリックを追加するには、オブジェクトメトリック ウィジェットでメトリックを選択し、[グラフへ移動] アイコンをクリックします。
- セッション関連オブジェクト ウィジェットでリソース アイコンをクリックすると、そのリソースの健全性の低下の考えられる原因が、順序付けされたメトリック異常ウィジェットに表示されます。順序付けされたメトリック異常ウィジェットには、そのメトリックが問題の原因に影響している可能性のパーセンテージを含め、選択したリソースのアラートに影響している関連リソースのメトリックに関する情報が表示されます。
- オブジェクトアラート ウィジェットを使用して、セッション関連オブジェクト ウィジェットで選択したリソースに関連付けられたオープンアラートを表示します。その考えられる原因と環境に与える影響についての情報を表示するには、アラートをダブルクリックします。

注意 vCenter Operations Manager はデータを収集して評価し、履歴トレンドに基づいて正常な動作または異常な動作を判断します。異常動作の判断、問題の分析、または特定のユーザー、デスクトップ仮想マシン、その他のインフラストラクチャリソースについての問題の解決を行うには、ヘルプデスクの専門家または仮想インフラストラクチャの管理者による調査が必要です。

View リモートセッションダッシュボード

View リモートセッションダッシュボードでは、お使いの View 環境で実行中のすべてのタイプのセッションを簡単に把握することができます。ダッシュボードのウィジェットは3つの列で編成されており、左の列には VDI デスクトップセッションのウィジェット、中央の列には RDS デスクトップセッションのウィジェット、右の列にはアプリケーションセッションのウィジェットが含まれます。各列には、ヒートマップウィジェットが1つとトップN分析ウィジェットが4つ含まれます。

注意 RDS デスクトップセッションとアプリケーションセッションは、Horizon 6.0.x with View 環境に固有のセッションです。

View リモートセッションダッシュボードを使用する上でのヒント

- VDI デスクトップセッション、RDS デスクトップセッション、およびアプリケーションセッションのウィジェットの色のついた四角形は、特定のリソースを表します。たとえば、VDI デスクトップセッションのウィジェットでは、四角形はそれぞれ特定の VDI デスクトップを表します。その関連付けられたリソースについての基本情報を表示するには、四角形をポイントします。
- 四角形のサイズは1つのメトリックの値を示し、四角形の色は別のメトリックの値を示し、ウィジェットがどのメトリック値を表示するかはウィジェットの構成で指定します。たとえば、[構成] ドロップダウンメニューから [ワークロードによってサイズ調整 - 健全性によって色づけ] を選択すると、四角形がワークロードメトリックの値に応じてサイズ調整され、健全性メトリックの値に応じて色づけされます。値の範囲中で、赤色が低い値を示し、緑色が高い値を示します。

- 各タイプの待ち時間、転送バンド幅、転送パケットロス、ログオン時間の値が最も高いセッションを表示するには、トップ N 分析ウィジェットを使用します。カテゴリ内で極端なパフォーマンスを示すものを表示することによって、環境の全体的なパフォーマンスの評価に役立ちます。

View VDI プール ダッシュボード

View VDI プール ダッシュボードを使用して、View 環境内の VDI デスクトッププールと VDI デスクトップセッションのパフォーマンスを表示します。VDI デスクトッププールは、リンク クローン デスクトッププール、自動デスクトッププール、または手動デスクトッププールのいずれかです。

VDI デスクトッププール下のウィジェットと VDI デスクトッププール インジケータ メトリック ウィジェットは、左右 2 つの列に編成されています。左側の列には VDI デスクトッププール仮想マシンのウィジェットが含まれ、右側の列には VDI デスクトッププールセッションのウィジェットが含まれます。各列には、ヒートマップウィジェットが 1 つとトップ N 分析ウィジェットが 4 つ含まれます。

VDI デスクトッププール ウィジェットは、ダッシュボード上のヒートマップウィジェットのマスター ウィジェットです。たとえば、VDI デスクトッププール ウィジェットでデスクトッププールを選択すると、VDI デスクトッププール仮想マシン ウィジェットによってデスクトップ仮想マシンがそのデスクトッププールに表示されます。VDI デスクトッププールセッション ウィジェットによって、そのデスクトッププールに現在ログオンしているデスクトップセッションが表示されます。

View VDI プール ダッシュボードを使用する上でのヒント

- VDI デスクトッププール インジケータ メトリック ウィジェット内のグラフを使用して、選択したメトリックの一定期間にわたる値を表示して、KPI の傾向を簡単に把握できます。
- VDI デスクトッププール仮想マシン ウィジェットと VDI デスクトッププールセッション ウィジェットの色のついた四角形は、特定のリソースを表します。たとえば、VDI デスクトッププール仮想マシン ウィジェットでは、四角形はそれぞれ特定の仮想マシンを表します。その関連付けられたリソースについての基本情報を表示するには、四角形をポイントします。
- 四角形のサイズは 1 つのメトリックの値を示し、四角形の色は別のメトリックの値を示し、ウィジェットの構成でウィジェットが表示するメトリック値を特定します。たとえば、[構成] ドロップダウンメニューから [ワークロードによってサイズ調整 - 健全性によって色づけ] を選択すると、四角形がワークロードメトリックの値に応じてサイズ調整され、健全性メトリックの値に応じて色づけされます。値の範囲中で、赤色が低い値を示し、緑色が高い値を示します。
- デスクトップ仮想マシンのトップ N 分析ウィジェットを使用して、CPU、メモリ、ディスク、およびネットワークワークロードが最も大きい仮想マシンを表示します。デスクトップセッションのトップ N 分析ウィジェットを使用して、待ち時間、転送バンド幅、転送パケットロス、ログオン時間が最も大きいセッションを表示します。カテゴリ内で極端なパフォーマンスを示すものを表示することによって、環境の全体的なパフォーマンスの評価に役立ちます。

View RDS プール ダッシュボード

View RDS プール ダッシュボードを使用して、View 環境のファーム、RDS ホスト、RDS デスクトッププール、アプリケーションプールのパフォーマンスを表示します。

注意 View RDS プール ダッシュボードは Horizon 6.0.x with View 環境に固有のダッシュボードです。View 環境に関係のないダッシュボードは隠すことができます。ダッシュボードの構成の詳細については、vCenter Operations Manager のドキュメントを参照してください。

View RDS プール ダッシュボードのウィジェットは 3 つの列で編成されており、左の列にはファームのウィジェット、中央の列には RDS デスクトッププールのウィジェット、右の列にはアプリケーションプールのウィジェットが含まれます。

View RDS プール ダッシュボードの各列には、リソース ウィジェットが 1 つ、ヒートマップウィジェットが 1 つ、トップ N 分析ウィジェットが 4 つ含まれます。各リソース ウィジェットは、その列のヒートマップウィジェットのマスター ウィジェットです。たとえば、最初の列のファーム ウィジェットでファームを選択すると、選択したファームのデータがその列のヒートマップウィジェットに表示されます。

View RDS プール ダッシュボードを使用する上でのヒント

- RDS ホストウィジェット、RDS デスクトップセッションウィジェット、アプリケーションセッションウィジェットの色のついた四角形は、特定のリソースを表します。たとえば、RDS ホストウィジェットでは、四角形はそれぞれ特定の RDS ホストを表します。その関連付けられたリソースについての基本情報を表示するには、四角形をポイントします。
- 四角形のサイズは1つのメトリックの値を示し、四角形の色は別のメトリックの値を示し、ウィジェットがどのメトリック値を表示するかはウィジェットの構成で指定します。たとえば、[構成] ドロップダウンメニューから [ワークロードによってサイズ調整 - 健全性によって色づけ] を選択すると、四角形がワークロードメトリックの値に応じてサイズ調整され、健全性メトリックの値に応じて色づけされます。値の範囲中で、赤色が低い値を示し、緑色が高い値を示します。
- RDS ホストのトップ N 分析ウィジェットを使用して、使用する CPU プロセッサ時間、使用中のコミット済みバイト数、1 秒あたりのディスク転送数、1 秒あたりの送信バイト数が最も大きい RDS ホストを表示します。RDS デスクトップセッションと RDS アプリケーションセッションのトップ N 分析ウィジェットを使用して、待ち時間、転送バンド幅、転送パケットロス、セッションのログオン時間が最も大きいセッションを表示します。カテゴリ内で極端なパフォーマンスを示すものを表示することによって、環境の全体的なパフォーマンスの評価に役立ちます。

View TS プール ダッシュボード

View TS プール ダッシュボードを使用して、Terminal Services デスクトッププール、Terminal Services ホスト、および View 環境内の Terminal Services デスクトップセッションのパフォーマンスを表示します。

注意 View TS プール ダッシュボードは View 5.3.x 以前の環境に固有のダッシュボードです。ダッシュボードタブの閉じるアイコン ([X]) をクリックして、View 環境に関係ないダッシュボードを非表示にできます。ダッシュボードの構成の詳細については、vCenter Operations Manager のドキュメントを参照してください。

Terminal Services デスクトッププールおよびTSデスクトッププールインジケータメトリックウィジェットの下ウィジェットは、2つの列に整理されています。左の列には Terminal Services ホストのウィジェット、右の列には Terminal Services デスクトッププールセッションのウィジェットが含まれます。各列には、ヒートマップウィジェットが1つとトップN分析ウィジェットが4つ含まれます。

Terminal Services デスクトッププールウィジェットは、ヒートマップウィジェットのマスターウィジェットです。たとえば、Terminal Services デスクトッププールウィジェットでデスクトッププールを選択すると、TS ホストウィジェットにそのデスクトッププールの Terminal Services ホストが表示され、TS デスクトップセッションウィジェットにそのデスクトッププールの Terminal Services デスクトップセッションが表示されます。

View TS プール ダッシュボードを使用する上でのヒント

- TS デスクトッププールインジケータメトリックウィジェットのグラフを使用して、選択したメトリックの一定期間にわたる値を表示して、KPI の傾向を簡単に把握できます。
- TS ホストおよびTSデスクトップセッションウィジェットの色のついた四角形は、特定のリソースを表します。たとえば、TS ホストウィジェットでは、四角形はそれぞれ特定の Terminal Services ホストを表します。その関連付けられたリソースについての基本情報を表示するには、四角形をポイントします。
- 四角形のサイズは1つのメトリックの値を示し、四角形の色は別のメトリックの値を示し、ウィジェットの構成でウィジェットが表示するメトリック値を特定します。たとえば、[構成] ドロップダウンメニューから [ワークロードによってサイズ調整 - 健全性によって色づけ] を選択すると、四角形がワークロードメトリックの値に応じてサイズ調整され、健全性メトリックの値に応じて色づけされます。値の範囲中で、赤色が低い値を示し、緑色が高い値を示します。

- Terminal Services ホストのトップ N 分析ウィジェットを使用して、CPU プロセッサ時間、1 秒あたりのディスク転送数、1 秒あたりの送信バイト数、および使用中のバイト数の値が最も高いホストを表示します。Terminal Services デスクトップ セッションのトップ N 分析ウィジェットを使用して、CPU プロセッサ時間、1 秒あたりのセッションディスク読み取り数、1 秒あたりの送信バイト数、およびセッション ログオン時間の値が最も高いセッションを表示します。カテゴリ内で極端なパフォーマンスを示すものを表示することによって、環境の全体的なパフォーマンスの評価に役立ちます。

View VDI トポロジ ダッシュボード

View VDI トポロジ ダッシュボードを使用して、View 環境内の View ポッド、セキュリティ サーバ、View 接続サーバ インスタンス、VDI デスクトップ プール、仮想マシン、VDI デスクトップセッション、および Horizon クライアントのステータスとパフォーマンスを表示します。

View VDI インフラストラクチャ ウィジェットには、各インフラストラクチャ層のリソース間の関係が表示されます。このウィジェットは、View VDI トポロジ ダッシュボードのマスター ウィジェットです。各リソースはバッジによって表されます。

View VDI インフラストラクチャ ウィジェットでリソース バッジをクリックすると、関連付けられているリソースが他のインフラストラクチャ レベルで強調表示され、ダッシュボード上の他のウィジェットに選択したリソースのデータが表示されます。

注意 関連付けられているリソースが他のインフラストラクチャ レベルで強調表示されるのは、直接のリソース関係が存在する場合だけです。

View VDI トポロジ ダッシュボードを使用する上でのヒント

- View VDI インフラストラクチャ ウィジェットでは、健全性、ワークロード、異常の数、重大なアラートの数に基づいてリソースを表示できます。表示を変更するには、ウィジェットの左上にあるバッジをクリックします。たとえば、View 環境内のリソースの現在のワークロードを表示するには、ワークロード バッジをクリックします。バッジをポイントすると、関連するリソースの詳細情報を確認できます。
- View VDI インフラストラクチャ ウィジェットでリソース バッジをクリックすると、関連するリソースと、関連オブジェクト ウィジェットのそれらのリソースのステータス情報がウィジェットで強調表示されます。関連オブジェクト ウィジェット内の各アイコンは、特定のリソースを表します。オブジェクトまたは関連するリソースのいずれかにアクティブなアラートがあると、アイコンの横に赤色の三角形が表示されます。
- オブジェクト メトリック ウィジェットを使用して、選択するリソースに対して収集されたメトリックを表示します。この情報は、正常な範囲を外れたメトリックを特定するのに役立ちます。
- ほとんどのリソースについて、オブジェクト メトリック ウィジェットには、リソース タイプに特有のものとして事前構成されたメトリックのリストが表示されます。事前構成されたメトリックのリストがないリソースの場合、オブジェクト メトリック ウィジェットには、選択されたリソースにとって重要だと考えられるメトリックが表示されます。期待される範囲外にあるもの、一定のしきい値を上限または下限を超えているもの、あるいは KPI としてマークされているものがこれに該当します。
- 順序付けされたメトリック異常ウィジェットを使用して、選択しているリソースの健全性の低下の考えられる原因を特定します。順序付けされたメトリック異常ウィジェットには、そのメトリックが問題の原因に影響している可能性のパーセンテージを含め、リソースのアラートに影響している関連リソースのメトリックに関する情報が表示されません。

View RDS トポロジ ダッシュボード

View RDS トポロジ ウィジェットを使用して、RDS デスクトップ プールおよび関連するファーム、RDS ホスト、RDS デスクトップセッション、および Horizon クライアントのステータスとパフォーマンスを表示します。

注意 View RDS トポロジ ダッシュボードは Horizon 6.0.x with View 環境に固有のダッシュボードです。View 環境に関係のないダッシュボードは隠すことができます。ダッシュボードの構成の詳細については、『VMware vCenter Operations Manager スタート ガイド (カスタム ユーザー インターフェイス)』を参照してください。

RDS デスクトップ インフラストラクチャ ウィジェットには、各インフラストラクチャ層のリソース間の関係が表示されます。このウィジェットは、View RDS トポロジ ダッシュボードのマスター ウィジェットです。各リソースはバッジによって表されます。View RDS トポロジ ダッシュボードでリソース バッジを選択すると、関連付けられているリソースが他のインフラストラクチャ レベルで強調表示され、ダッシュボード上の他のウィジェットに選択したリソースのデータが表示されます。

注意 関連付けられているリソースが他のインフラストラクチャ レベルで強調表示されるのは、直接のリソース関係が存在する場合だけです。

View RDS トポロジ ダッシュボードを使用する上でのヒント

- RDS デスクトップ インフラストラクチャ ウィジェットでは、健全性、ワークロード、異常または障害の数に基づいてリソースを表示できます。表示を変更するには、ウィジェットの左上にあるバッジをクリックします。たとえば、RDS デスクトップ インフラストラクチャのリソースの現在のワークロードを表示するには、ワークロード バッジをクリックします。バッジをポイントすると、関連するリソースの詳細情報を確認できます。
- RDS デスクトップ インフラストラクチャ ウィジェットでリソース バッジをクリックすると、関連するリソースがウィジェットで強調表示され、それらのリソースのステータス情報が関連オブジェクト ウィジェットに表示されます。関連オブジェクト ウィジェット内の各アイコンは、特定のリソースを表します。リソースまたは関連するリソースのいずれかにアクティブなアラートがあると、アイコンの横に赤色の三角形が表示されます。
- オブジェクトメトリック ウィジェットを使用して、選択するリソースに対して収集されたメトリックを表示します。この情報は、正常な範囲を外れたメトリックを特定するのに役立ちます。
- ほとんどのリソースについて、オブジェクトメトリック ウィジェットには、リソース タイプに特有のものとして事前構成されたメトリックのリストが表示されます。事前構成されたメトリックのリストがないリソースの場合、オブジェクトメトリック ウィジェットには、選択されたリソースにとって重要だと考えられるメトリックが表示されます。期待される範囲外にあるもの、一定のしきい値を上限または下限を超えているもの、あるいは KPI としてマークされているものがこれに該当します。
- 順序付けされたメトリック異常ウィジェットを使用して、選択しているリソースの健全性の低下の考えられる原因を特定します。順序付けされたメトリック異常ウィジェットには、そのメトリックが問題の原因に影響している可能性のパーセンテージを含め、リソースのアラートに影響している関連リソースのメトリックに関する情報が表示されます。

View アプリケーション トポロジ ダッシュボード

View アプリケーション トポロジ ダッシュボードを使用して、アプリケーション プールとその関連付けられたファーム、RDS ホスト、アプリケーション セッション、アプリケーション、および Horizon クライアントのステータスとパフォーマンスを表示します。

注意 View アプリケーション トポロジ ダッシュボードは Horizon 6.0.x with View 環境に固有のダッシュボードです。View 環境に関係のないダッシュボードは隠すことができます。ダッシュボードの構成の詳細については、『VMware vCenter Operations Manager スタート ガイド (カスタム ユーザー インターフェイス)』を参照してください。

アプリケーション インフラストラクチャ ウィジェットには、各インフラストラクチャ層のリソース間の関係が表示されます。このウィジェットは、View アプリケーション トポロジ ダッシュボードのマスター ウィジェットです。各リソースはバッジによって表されます。アプリケーション インフラストラクチャ ウィジェットでリソース バッジを選択すると、関連付けられているリソースが他のインフラストラクチャ レベルで強調表示され、ダッシュボード上の他のウィジェットに選択したリソースのデータが表示されます。

注意 関連付けられているリソースが他のインフラストラクチャ レベルで強調表示されるのは、直接のリソース関係が存在する場合だけです。

View アプリケーション トポロジ ダッシュボードを使用する上でのヒント

- アプリケーション インフラストラクチャ ウィジェットでは、健全性、ワークロード、異常または障害の数に基づいてリソースを表示できます。表示を変更するには、ウィジェットの左上にあるバッジをクリックします。たとえば、アプリケーション インフラストラクチャのリソースの現在のワークロードを表示するには、ワークロード バッジをクリックします。バッジをポイントすると、関連付けられたリソースの詳細情報を確認できます。
- アプリケーション インフラストラクチャ ウィジェットでリソース バッジをクリックすると、関連するリソースがウィジェットで強調表示され、それらのリソースのステータス情報が関連オブジェクト ウィジェットに表示されます。関連オブジェクト ウィジェット内の各アイコンは、特定のリソースを表します。リソースまたは関連オブジェクトのいずれかにアクティブなアラートがあると、アイコンの横に赤色の三角形が表示されます。
- オブジェクト メトリック ウィジェットを使用して、選択するリソースに対して収集されたメトリックを表示します。この情報は、正常な範囲を外れたメトリックを特定するのに役立ちます。
- ほとんどのリソースについて、オブジェクト メトリック ウィジェットには、リソース タイプに特有のものとして事前構成されたメトリックのリストが表示されます。事前構成されたメトリックのリストがないリソースの場合、オブジェクト メトリック ウィジェットには、選択されたリソースにとって重要だと考えられるメトリックが表示されます。期待される範囲外にあるもの、一定のしきい値を上限または下限を超えているもの、あるいは KPI としてマークされているものがこれに該当します。
- 順序付けされたメトリック異常ウィジェットを使用して、選択しているリソースの健全性の低下の考えられる原因を特定します。順序付けされたメトリック異常ウィジェットには、そのメトリックが問題の原因に影響している可能性のパーセンテージを含め、リソースのアラートに影響している関連リソースのメトリックに関する情報が表示されます。

vSphere トポロジ ダッシュボード

vSphere トポロジ ダッシュボードを使用して、カスタム グループ、vCenter Server システム、データセンター、クラスター、ホスト、仮想マシン、データストアなど、vSphere トポロジのコンポーネントのステータスとパフォーマンスを表示します。

vSphere インフラストラクチャ ウィジェットは、vSphere トポロジ ダッシュボードのマスター ウィジェットです。vSphere インフラストラクチャ ウィジェットでリソースを選択すると、関連付けられているリソースが他のインフラストラクチャ レベルで強調表示され、ダッシュボード上の他のウィジェットに選択したリソースのデータが表示されます。

注意 関連付けられているリソースが他のインフラストラクチャ レベルで強調表示されるのは、直接のリソース関係が存在する場合だけです。

vSphere トポロジ ダッシュボードを使用する上でのヒント

- vSphere インフラストラクチャ ウィジェットでは、健全性、ワークロード、異常または障害の数に基づいてリソースを表示できます。表示を変更するには、ウィジェットの左上にあるバッジをクリックします。たとえば、vSphere インフラストラクチャのリソースの現在のワークロードを表示するには、ワークロード バッジをクリックします。バッジをポイントすると、関連付けられたリソースの詳細情報を確認できます。
- vSphere インフラストラクチャ ウィジェットでバッジをクリックすると、関連するリソースのステータス情報が関連オブジェクト ウィジェットに表示されます。関連オブジェクト ウィジェット内の各アイコンは、特定のリソースを表します。リソースまたは関連するリソースのいずれかにアクティブなアラートがあると、アイコンの横に赤色の三角形が表示されます。
- 順序付けされたメトリック異常ウィジェットを使用して、選択しているリソースの健全性の低下の考えられる原因を特定します。順序付けされたメトリック異常ウィジェットには、そのメトリックが問題の原因に影響している可能性のパーセンテージを含め、リソースのアラートに影響している関連リソースのメトリックに関する情報が表示されます。

View リモート セッション詳細ダッシュボード

リモート セッション詳細ダッシュボードを使用して、View 環境で実行しているすべてのタイプのセッションに関する詳細情報を表示します。

注意 RDS デスクトップ セッションとアプリケーション セッションは、Horizon 6.0.x with View 環境に固有のセッションです。

View リモート セッション ウィジェットには、VDI デスクトップ セッション、RDS デスクトップ セッション、環境のアプリケーション セッションが表示されます。このウィジェットは、ダッシュボードのセッション インジケータおよびセッションのイベントと健全性ウィジェットのマスター ウィジェットです。

リモート セッション詳細ダッシュボードを使用する上でのヒント

- セッション インジケータ ウィジェットを使用して、セッションの健全性、セッションのワークロード、セッションのログオン時間、および PCoIP セッション待ち時間、バンド幅、パケット ロスなどの重要なセッション メトリックの値を表示します。
- セッションのゲスト内データ収集結果ウィジェットでアクションを実行してデスクトップのゲスト内処理や、CPU、メモリ、IO 使用などのリソース使用状況に関する情報を取得します。デスクトップ プロセスを取得アクションおよびデスクトップ サービスを取得アクションでは、最もリソースを使用しているデスクトップ プロセスやアプリケーションを特定できます。デスクトップを取得/クライアントの Traceroute アクションでは、デスクトップとクライアント間のネットワークの距離および質に関する情報を取得できます。詳細については、「[データ収集結果ウィジェットの使用 \(P. 33\)](#)」を参照してください。
- セッションのイベントと健全性ウィジェットには、選択したセッションの健全性と異常を示したタイムラインが表示されます。タイムラインには、セッション関連のイベントとアラートが注釈として示されます。

View RDS ホスト詳細ダッシュボード

View RDS ホスト詳細ダッシュボードを使用して、View 環境の RDS ホストに関する詳細情報を表示します。

注意 View RDS ホスト詳細ダッシュボードは Horizon 6.0.x with View 環境に固有のダッシュボードです。View 環境に関係のないダッシュボードは隠すことができます。ダッシュボードの構成の詳細については、『VMware vCenter Operations Manager スタート ガイド (カスタム ユーザー インターフェイス)』を参照してください。

RDS ホストのウィジェットには、環境の RDS ホストがすべて表示されます。このウィジェットは、ダッシュボードのホスト インジケータ メトリック、ホスト セッション、およびホストのイベントと健全性ウィジェットのマスター ウィジェットです。

View RDS ホスト詳細ダッシュボードを使用する上でのヒント

- ホスト インジケータ メトリック ウィジェットを使用して、健全性、ワークロード、セッションの合計、デスクトップ セッション、アプリケーション セッション、および PCoIP 待ち時間、バンド幅、パケット ロスなどの重要なホスト メトリックの値を表示します。
- ホスト セッション ウィジェットには、選択した RDS ホストで現在実行しているアプリケーション セッションと RDS デスクトップ セッションが表示されます。各セッションの収集状態およびステータス、健全性スコア、ワークロード、セッション状態、プロトコル、および待ち時間に関する情報がソートできる列に表示されます。
- ホストのゲスト内データ収集結果ウィジェットでアクションを実行してホストのゲスト内処理や、CPU、メモリ、IO 使用などのリソース使用状況に関する情報を取得します。ホスト プロセスの取得アクション、ホスト サービスの取得アクション、およびホスト ユーザーの取得アクションでは、最もリソースを使用しているホスト プロセス、アプリケーション、およびユーザーを特定できます。詳細については、「[データ収集結果ウィジェットの使用 \(P. 33\)](#)」を参照してください。
- ホストのイベントと健全性ウィジェットには、選択したホストの健全性と異常を示したタイムラインが表示されます。タイムラインには、ホスト関連のイベントとアラートが注釈として示されます。

View Adapter ステータス ダッシュボード

View アダプタ ステータス ダッシュボードを使用して、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタおよびこれらのアダプタに接続されている vCenter Operations Manager for Horizon Broker Agent の健全性情報を表示します。View アダプタ ステータス ダッシュボードを使用してライセンスのコンプライアンスを確認することもできます。

View アダプタ選択ウィジェットは、ダッシュボード上のアダプタ関連ウィジェットのマスター ウィジェットです。View アダプタ選択ウィジェットでアダプタを選択すると、View アダプタ統計ウィジェットおよび View アダプタ ステータス ウィジェットに、選択したアダプタのデータが表示されます。

View Broker Agent 選択ウィジェットは、ダッシュボード上の Broker Agent 関連ウィジェットのマスター ウィジェットです。View Broker Agent 選択ウィジェットで Broker Agent を選択すると、View Broker Agent DB 収集統計、View Broker Agent メトリック収集統計、View Broker Agent トポロジ収集統計、View Broker Agent ステータスの各ウィジェットに、選択した Broker Agent のデータが表示されます。

View アダプタ ステータス ダッシュボードを使用する上でのヒント

- View アダプタ ステータス ウィジェットは、前回の収集期間の長さ、前回の収集期間中にデータ サンプルを送信したデスクトップの数、前回の収集期間中にアダプタが受信したリソースの合計数など、選択したアダプタに関する重要なメトリックを表示するために使用します。
- View Broker Agent ステータス ウィジェットは、トポロジ、メトリック、およびデータベースのイベント収集時間およびユーザー セッション、デスクトップ仮想マシン、およびデータベース イベント レコード カウントなど、選択した Broker Agent に関する重要なメトリックを表示するために使用します。
- View 同時セッション カウント ウィジェットは、同時デスクトップ セッションの数がライセンスで指定されている限度を下回っていることを確認するために使用します。vCenter Operations Manager for Horizon は同時デスクトップ セッション数でライセンスが付与されます。
- View ライセンス付与済みセッション カウント ウィジェットは、vCenter Operations Manager ライセンスのコンプライアンスを確認するために使用します。vCenter Operations Manager は、仮想マシンの実行状態にかかわらず、仮想マシンの数でライセンスが付与されます。
- View Broker Agent トポロジ収集統計、View Broker Agent メトリック収集統計、および View Broker Agent DB イベント収集統計の各ウィジェットに、選択した Broker Agent の収集統計が表示されます。これらのウィジェットには、関連する収集メトリックの一定期間の値を含む、単純なグラフが表示されます。

Broker Agent メトリックについて

View アダプタ ステータス ダッシュボード上の Broker Agent メトリックは正確ですが、その値が不適切なことがあります。これらのメトリックは Broker Agent 内のさまざまなアクティビティに対応しているため、それぞれ異なる間隔で更新されます。このため、一部のメトリックが古かったり最新でないことがあります。

たとえば、View Broker Agent ステータス ウィジェット内のトポロジ収集時間、ユーザー セッション カウント、デスクトップ仮想マシン カウントの各メトリックは、1 時間に 1 回しか更新されません。ユーザー セッション カウント メトリックの値は最大で 1 時間前の値である可能性があるため、他のダッシュボードに表示されるセッション カウント値と一致しないことがあります。

他の例として、DB イベント収集時間メトリックおよび DB イベント レコード カウント メトリックに、データが収集されている場合でも、データがないことを示す疑問符 (?) が表示されることがあります。この状況は、過去 6 時間に関連する vCenter Operations Manager for Horizon データベース イベントが収集されていない場合に発生します。これは、これらのメトリックは Broker Agent がアダプタにイベントを送信する際（セッション接続イベントや View エラーイベント）にのみ更新されるためです。

一般に、メトリック収集メトリックは 5 分ごとに送信され、トポロジ収集メトリックは毎時間送信されます。データベース イベント収集メトリックの送信頻度は、1 分に 1 回と頻繁な場合もあれば、関連した vCenter Operations Manager for Horizon イベントと同じぐらい頻度が低い場合もあります。

データ収集結果ウィジェットの使用

データ収集結果ウィジェットで、リモート デスクトップのゲスト内処理データを収集および表示します。ゲスト内処理データは、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタが通常収集するデスクトップ メトリックから切り離されている場合も、デスクトップ メトリックに追加されている場合もあります。

データ収集結果ウィジェットのアクション

アクションを実行すると、データ収集結果ウィジェットにセッションまたはホスト リソースのゲスト内処理データが表示されます。使用可能なアクションは、リソース タイプによって異なります。

表 3-1. リソース タイプ別の実行可能なアクション

リソース タイプ	実行可能なアクション	使用するタイミング
セッションのリソース： ■ VDI デスクトップセッション ■ RDS デスクトップセッション ■ アプリケーションセッション ■ Terminal Services セッション	■ デスクトップ プロセスを取得 ■ デスクトップ サービスを取得 ■ デスクトップを取得/クライアントの Traceroute ■ RDSS を取得/クライアントの Traceroute ■ APPS を取得/クライアントの Traceroute ■ TSS を取得/クライアントの Traceroute	これらのアクションで、ゲスト内デスクトップ処理や、CPU、メモリ、IO 使用などのリソース使用状況に関する情報を取得します。 デスクトップ プロセスを取得アクションおよびデスクトップ サービスを取得アクションでは、最もリソースを使用しているデスクトップ プロセスやアプリケーションを特定できます。 Traceroute アクションは、セッション リソース タイプそれぞれに指定します。このアクションでは、デスクトップとクライアント間のネットワークの距離および質に関する情報を取得できます。
ホスト リソース： ■ RDS ホスト ■ TS ホスト	■ ホスト プロセスの取得 ■ ホスト サービスの取得 ■ ホスト ユーザーの取得	これらのアクションで、CPU、メモリ、IO 使用などのリソース使用状況に関する情報を取得します。 ホスト プロセスの取得アクション、ホスト サービスの取得アクション、およびホスト ユーザーの取得アクションでは、最もリソースを使用しているホスト プロセス、アプリケーション、およびユーザーを特定できます。

セッションおよびホスト リソースのゲスト内処理データの表示

データ収集結果ウィジェットを使用してセッションまたはホスト リソースのデータのゲスト内処理を表示できます。ゲスト内処理データは、vCenter Operations Manager for Horizon アダプタが通常収集するデスクトップ メトリックから切り離されている場合も、デスクトップ メトリックに追加されている場合もあります。

開始する前に

- データ収集結果ウィジェットを構成します。[「データ収集結果ウィジェットの構成 \(P. 20\)」](#) を参照してください。
- データ収集結果ウィジェットで実行できる操作についてよく理解してください。[「データ収集結果ウィジェットのアクション \(P. 33\)」](#) を参照してください。
- [\[アクションの実行\]](#) へのアクセス権があることを確認します。データ収集結果ウィジェットで操作を実行するには、[\[アクションの実行\]](#) にアクセスする権限が必要です。Administrators および Operators のユーザー グループ両方に [\[アクションの実行\]](#) へのアクセス権があります。

手順

- 1 vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスにログインします。
 カスタム ユーザー インターフェイスの URL は <https://<ipaddress>/vcops-custom> です。<ipaddress> は vCenter Operations Manager vApp の UI VM の IP アドレスです。
- 2 データ収集結果ウィジェットを含むダッシュボードのタブをクリックします。

- 3 別のウィジェットでデータ収集結果ウィジェットにリソースを提供するように構成した場合は、そのウィジェットでリソースを選択します。
リソースを選択すると、データ収集結果ウィジェットの [アクションの選択] ドロップダウン メニューに、そのリソースに実行できる操作が表示されます。
- 4 データ収集結果ウィジェットで、[アクションの選択] ドロップダウン メニューからアクションを選択します。
- 5 [アクションの実行] アイコン (>) をクリックして操作を開始します。
[結果] ドロップダウン メニューに、アクションのステータスが表示されます。操作が終了すると、データ収集結果ウィジェット ウィンドウにアクションの結果が表示されます。ウィジェットの結果のグリッドで列ヘッダーをクリックすると、列データをソートしたり、CPU、メモリ、その他のリソースを最も使用している処理をすぐに判断したりできます。
- 6 (オプション) 過去の結果を表示するには、表示する結果を [結果] ドロップダウン メニューから選択します。
データ収集結果ウィジェット ウィンドウに結果が表示されます。
- 7 (オプション) [結果] ドロップダウン メニューから過去の結果を削除するには、削除する結果を選択して [選択した結果の削除] (X) アイコンをクリックします。

次に進む前に

vCenter Operations Manager のユーザー インターフェイスの [サポート] ページで、最近のアクション タスクに関する詳細情報を表示できます。「[最近のタスクに関する情報の表示 \(P. 34\)](#)」を参照してください。

最近のタスクに関する情報の表示

最近のタスクのリストを表示したり、選択したタスクの詳細および関連オブジェクト情報を表示したり、vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスの [サポート] ページで選択した基準に基づいてタスクや詳細情報をフィルタリングしたりできます。

開始する前に

- データ収集結果ウィジェットでアクションを実行します。「[セッションおよびホスト リソースのゲスト内処理データの表示 \(P. 33\)](#)」を参照してください。
- [アクションの実行] へのアクセス権があることを確認します。[最近のタスク] タブで情報を表示するには、[アクションの実行] にアクセスする権限が必要です。Administrators および Operators のユーザー グループ両方に [アクションの実行] へのアクセス権があります。

手順

- 1 vCenter Operations Manager のカスタム ユーザー インターフェイスにログインします。
カスタム ユーザー インターフェイスの URL は <https://<ipaddress>/vcops-custom> です。<ipaddress> は vCenter Operations Manager vApp の UI VM の IP アドレスです。
- 2 [管理] - [サポート] の順に選択し、[最近のタスク] タブをクリックします。
上部のペインに、ステータス、開始時間および終了時間、関連付けられたオブジェクト情報などの最近のタスクすべてのリストが表示されます。上部のペインでタスクを選択すると、選択したタスクに関連付けられたオブジェクトが左下のペインに表示され、選択したタスクに関連付けられたメッセージが右下のペインに表示されます。
- 3 (オプション) [最近のタスク] タブで情報をフィルタリングします。

オプション	操作
ステータスによるアクションのフィルタ	上部のペインの [ステータス] ドロップダウン メニューからステータスの値を選択します。たとえば、[完了] を選択して、完了したタスクのみを表示します。
重要度によるメッセージのフィルタ	右下のペインの [メッセージ] ドロップダウン メニューから重要度レベルを選択します。たとえば、[エラー] を選択して、エラー メッセージのみを表示します。

インデックス

B

Broker Agent の構成 12
Broker Agent の要件 8

D

describe.xml ファイル 18
desktop agent のソフトウェア要件 8

O

Oracle イベント データベースのサポート 8

R

RMI 認証 14

V

View 5.0 および 5.1 desktop agent のインストール 15
View 5.0 および 5.1 のインストール タスク 14
View RDS トポロジ ダッシュボード 28
View RDS プール ダッシュボード 26
View RDS ホスト詳細ダッシュボード 31
View TS プール ダッシュボード 27
View VDI トポロジ ダッシュボード 28
View VDI プール ダッシュボード 26
View アダプタ ステータス ダッシュボード 32
View アプリケーション トポロジダッシュボード 29
View インフラストラクチャ ダッシュボード 24
View 概要ダッシュボード 23
View ユーザー ダッシュボード 24
View リモート セッションダッシュボード 25
View リモート セッション詳細ダッシュボード 31
vSphere トポロジ ダッシュボード 30

あ

アダプタ インスタンス 11
アダプタのインストール 10
アダプタのソフトウェア要件 7
アップグレード手順 17
アラートの削除 19
アラートの定義 18

い

インストール手順 9, 10
インストール ファイル 9

こ

互換性マトリクス 7

さ

[最近のアクションの表示] タブ 34

せ

セキュリティの考慮事項 17

た

対象読者 5
ダッシュボード 23
ダッシュボードの概要 23

て

データ収集結果ウィジェット 20, 33
データ保持ポリシー 21

と

トラブルシューティング 20

は

ハードしきい値 19
ハードウェア要件 8

ふ

Broker Agent のインストール 12

よ

要件 7
用語集 5

り

リモートデスクトップのグループポリシー オブジェクト 16

